

# Long-Term Trends in The 5-year Risk of Recurrent Stroke over A Half Century in A Japanese Community: The Hisayama Study

中西, 泰之

<https://hdl.handle.net/2324/4795538>

---

出版情報 : 九州大学, 2022, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :

権利関係 : (c)2022 Japan Atherosclerosis Society. This article is distributed under the terms  
of the latest version of CC BY-NC-SA defined by the Creative Commons Attribution License.

氏名： 中西 泰之

論文名： Long-Term Trends in The 5-year Risk of Recurrent Stroke over A Half Century in A Japanese Community: The Hisayama Study

(日本人地域住民における脳卒中5年再発リスクの半世紀にわたる長期の時代的推移：久山町研究)

区分： 甲

### 論文内容の要旨

#### 目的:

脳卒中再発リスクの時代的推移についての疫学研究は、国外ではこれまでにいくつか報告されているが、日本国内での報告はない。そこで今回、日本の地域住民を対象とした半世紀以上にわたる前向きコホート研究のデータを用いて脳卒中再発リスクの時代的推移を検討した。

#### 方法:

1961年、1974年、1988年、2002年に設定した4つのコホートを用いた。脳卒中再発リスクを検討するため、各コホートをそれぞれ10年間追跡し、その期間に初発の脳卒中を発症した154名（第1サブコホート：1961-1971年）、144名（第2サブコホート：1974-1984年）、172名（第3サブコホート：1988-1998年）、146名（第4サブコホート：2002-2012年）を本研究の対象として、各サブコホートの対象者を脳卒中初発日から5年間追跡した。全脳卒中初発後5年間の再発リスクについて、カプラン-マイヤー法および性年齢調整したコックス比例ハザードモデルを用いてサブコホート間で比較した。

#### 結果:

全脳卒中および虚血性脳卒中初発後の再発リスクは第1サブコホートから第3サブコホートにかけて有意に低下したが、第3サブコホートから第4サブコホートにかけては明らかな低下は認めなかった。出血性脳卒中初発後の再発リスクは主に第1サブコホートから第2サブコホートにかけて低下し、第2サブコホートから第4サブコホートにかけては明らかな低下は認めなかった。これらの傾向は性年齢調整後もほぼ同様であった。

#### 結論:

日本人の地域住民において、脳卒中再発リスクは主に1960年代から1990年代にかけて低下したが、近年は明らかな低下を認めなかった。